

「共助による自然保護」の流れをつくる！ YAMAP FUNDINGで支援の輪を広げよう！

2022年8月、登山者にWebサービス・スマートフォンアプリを提供する株式会社ヤママップ様より、自然特化型クラウドファンディング「YAMAP FUNDING」で支援したいとお声掛けいただきました。ヤママップさんは、登山アプリ「YAMAP」を運営する中で、登山者が自然保護に取り組む団体を支援できる「YAMAP FUNDING」を立ち上げ、「共助による自然保護」の流れをつくっておられます。山に関心を持つYAMAPユーザーの皆さんに、当財団を知ってもらいたいいい機会になる！とすぐに快諾しました。

当財団の保全活動、調査活動、トラスト地ツアーなど事業はたくさんありましたが、ちょうど10月に開始しようとしていた高千穂トラスト地での皆伐跡地の植生調査にご支援いただくことにしました（調査の詳細は2-3ページ参照）。

YAMAP FUNDING「神話と伝説の町・高千穂峡の水源の森再生プロジェクト」として、11月末から約1か月間支援ページを公開しました。結果、なんと14,178名もの方から目標金額を大きく上回る35万円のご支援をいただきました。



「神の住まう地、高千穂でこのような取り組みがされている事を初めて知りました。頑張ってください！」
「トラスト地の保全活動を応援させていただきます」
など応援のコメントもたくさんいただきました。
この度、お声掛けくださった株式会社ヤママップ様、プロジェクトページの立ち上げ、編集にご尽力くださった担当の小島様、そしてこのプロジェクトにご支援くださった皆様に改めて感謝申し上げます。今後もヤママップさんのアプリを通して、奥山保全の情報を発信していきます！



↑YAMAP FUNDINGのページ（現在は終了しております）

山林をお譲りいただける方を探しています

当財団では、ナショナル・トラストにより購入対象となる水源の自然林を探しています。

山林をお持ちで、ご興味・ご関心のある方はぜひ一度ご連絡ください。10ha以上のまとまった面積を希望しています。クマやイヌワシなど、豊かな森を象徴する動物が生息していると、なお良いです。一部人工林部分を含む場合でも検討いたしますので、ご相談いただけたらと思います。

今年からホームページでも募集ページを立ち上げています。ご関心ありそうなお知り合いの方にもぜひお声かけください。

保護区として看板も設置！



←ホームページ QRコード

トラスト地取得資金・管理資金等にご協力ください

・ゆうちょ銀行振替口座 00920-4-305993
(口座名) 公益財団法人 奥山保全トラスト



トラストだより



宮崎県高千穂町 高千穂トラスト地 トラスト地入り口に設置された看板（職員撮影）

壊すためではなく、守るための調査を 理事長 米田 真理子

春寒も緩みはじめ、ようやく過ごしやすい気候になってまいりました。昨年、当財団は着実な森再生を目指して、2か所のトラスト地で新たな調査を始めました。三重県池ノ谷では、2020年に設置した堰提周辺の土砂堆積状況の調査を行い、堰提の効果検証を開始、宮崎県高千穂では、皆伐部分における植生回復の記録調査に着手しました。当財団の行う「調査」は、森再生を目指す上での事例となるもの、そして可能な限り自然に負荷を与えず、自然の力を生かして行うものです。

現在、貴重な自然の残る奥山で、高い環境負荷を伴う風力や太陽光といった再生可能エネルギーの開発が進められています。事前に開発による環境影響を予測・評価する「環境アセスメント制度」が法律や条例で設けられてはいますが、実際に影響を調査し、評価するのは事業者自身。事業を進めたいがために「都合よく」調査の結果を出すこともあり、町、県、国、審査会の意見に強制力はなく、法律に罰則規定もありません。

今進めるべきは、「再エネ開発のための名ばかりの環境調査」ではなく、「天然林再生を目指す調査」、そして「再エネで森を破壊すること」ではなく、「水源の森を次世代へ残すこと」です。私たちは水源の森の保全や、天然林再生のための調査を進め、その成果を発信してまいります。

当財団の活動にご賛同いただき、支えてくださる会員様を募集しています。活動を広げていくために、ご支援・ご寄附をお願い申し上げます。



ホームページから
お願いします。

<https://www.okuyama-trust.org/>ご入会-ご寄附/

※太字部分は日本語入力です。
QRコードはこちら→



宮崎県 高千穂トラスト地



天然林再生の秘訣を求め、新たな調査が始動！

どんなところ？

高千穂トラスト地は、奥山保全トラストが2009年11月30日に取得した（当時はNPO法人）宮崎県高千穂町の山林で、広さは約2ha（約6千坪）と比較的面積は小さいですが、一級河川「五ヶ瀬川」の支流、跡取川に注ぐ水源の森です。

宮崎県は森林率が76%、そのうち57%が人工林と、林業が盛んな一方で人工林率も非常に高いです。貴重な天然林を保全し、人工林を天然林に戻していくために、九州で最初に取得したトラスト地です。

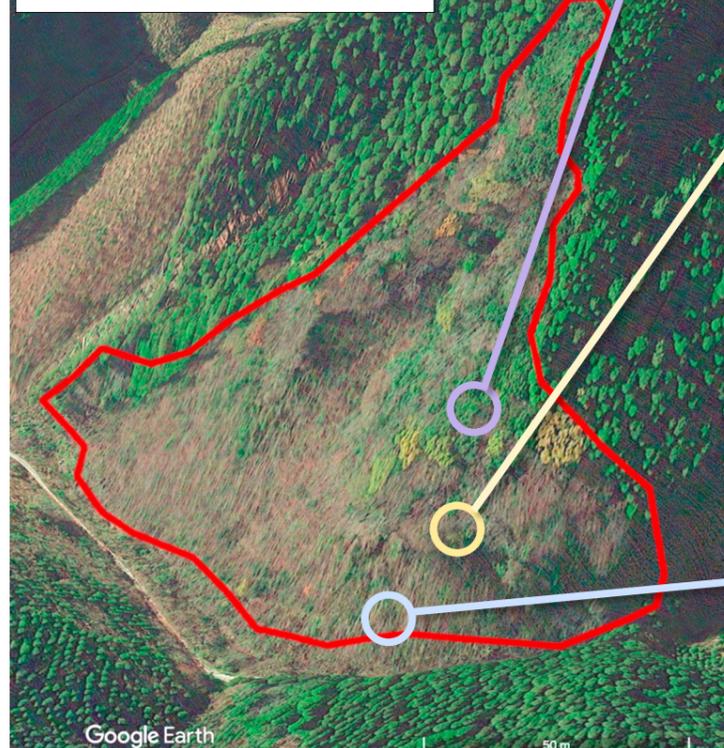
点線内が奥山保全トラスト所有の範囲
2009年頃に向かいの山から撮影



取得した頃はトラスト地内の人工林皆伐跡地にまだ何も生えておらず、周囲の人工林と、トラスト地に残された天然林部分との違いがハッキリとわかる。

約10年後

赤枠内が奥山保全トラスト所有の範囲
2020年12月衛星写真



2020年の衛星写真では、皆伐跡地に植物が生い茂っているのがわかる。12月のため落葉しており、枝や幹の茶色が目立っている。



天然林エリア
取得以前から残されている天然林部分はアラカシ、スダシイ、ヤブツバキなど常緑の樹種が多く確認できた。



皆伐跡地エリア
伐採から13年ほど経過し、アカメガシワ、ウリハダカエデ、カラスザンショウといった先駆種（パイオニア種とも呼ばれる）とと呼ばれる樹種が多く確認できた。



沢沿いエリア（表紙写真、看板の場所）
自動撮影カメラとデータロガーを設置し、野生動物の生息確認と水場付近の気温と湿度の記録を行っている。

調査を開始！

人工林だった場所が自然の森になっていく過程を記録すべく、広島フィールドミュージアムの金井塚務先生に調査手法の立案と現地での指導についてご協力いただきました。

現地での作業については協力団体である日本熊森協会の本部・宮崎県支部と共同で行いました。

条件の違う場所で、それぞれ正方形の調査区画を作り、その中で生育している植物の状況を記録し、数年ごとの変化を探っていきます。今回の調査区画は天然林エリアと皆伐跡地エリアの2か所に、それぞれ9個の区画を作成します。

正確な正方形を測るために様々な道具を使用しました。起点となる杭を打ち込み、巻き尺で長さを測り、コンパスグラスで角度を取り、ロープを張って調査区画が完成！

各調査区画内で、胸高直径1cm以上の木本を調査対象として樹木の位置、樹種、太さ、高さ、その他気づいたことを記録用紙に書き込みます。樹木の種類を同定する必要があるため、図鑑が必須です。分からない場合は写真を撮り、位置を明確に記録して後で調べるため、勉強にもなります。

各エリアにデータロガー（気温と湿度を定期的に記録する機械）と自動撮影カメラを設置し、気候条件の変化や、野生動物の棲息状況についても継続的に調査を行います。



今後はこのような調査を他のトラスト地でも行い、天然林再生への足掛かりにしていきたいと考えております。興味がある方、天然林再生に携わりたい方は、奥山保全トラストまでご連絡下さい。

3A	3B	3C
2A	2B	2C
1A	1B	1C

←イメージ図
●の部分に杭を打ち込み、直線の部分にロープを張る。左下を起点とし、横軸をABC....、縦軸を123....として各区画の呼称を決定する。1区画は5m四方。